ISSN　0915－6925

大学アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2014. 3.31　No.50

Japan Association of College and University Archives：Eastern Japan Division

目　　次

・土屋　昌子「松原太郎氏「明治期神田学生街の形成と私立法律学校」を聞いて」…… 1
・小関　有希「全国研究会（テーマ「大学史資料の活用と展示」）に参加して」…… 3
・村上　　民「「武蔵野美術大学美術館・図書館」見学会に参加して」…… 5
・全国大学史資料協議会 2013 年度総会議事録・講演記録…… 6
・全国大学史資料協議会 2013 年度役員会議事録…… 7
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録 …… 8
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録 …… 10
・全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿 …… 14

2013 年 10 月 9 日～ 11 日　全国大学史資料協議会 2013 年度総会ならびに全国研究会・講演

松原太郎氏「明治期神田学生街の形成と私立法律学校」を聞いて

恵泉女学園史料室　土屋　昌子

まず、今年度も全国各地の大学から関係者が一堂に集まり大学史資料協議会が盛大に行われ、一連の研修の機会が備えられたことに感謝申し上げたい。内外の学校史に対する認識も徐々に深まり参加校も年々増加していることは、近年の幹事校はじめ会員校の活動の賜物と思う。このような交流の機会を通して各校の担当者が様々な経験を共有し、持ち帰って、それぞれの業務の点検、展開を促すものになることを期待している。

さて、初日の 10 月 9 日（水）には、「明治期神田学生街の形成と私立法律学校」と題した松原太郎氏（日本大学広報部大学史資料課）の講演をお聞きした。趣旨説明で、この講演は 2014 年 1 月から明治大学の大学史展示室で開催予定の「近代日本の幕開けと私立法律学校―神田学生街と法典論争展」の準備段階の報告として行いたいという説明があった。この企画展は、神田に所在地をもち、明治 10 年代に私立法律学校として発足した歴史を持つ 4 大学（日本大学、専修大学、中央大学、明治大学）の共催で行われるものである。展示は「神田」と「明治期の法典編纂」「私立法律学校の創設」「大学への展開」をキーワードに、日本における法律学校の成立と、その背景にある近代法の整備を進める国家および法曹界の姿に迫りつつ、新しい社会への希望を胸に神田に集った若者たちの生活の一端を、新しい知見を加えて紹介する試みとなっている。以下に講演の概要を記す。

幕末から明治維新を経て、日本が近代国家としての歩みを始めようとしていた頃、その

骨格をなす法典編纂も国家的社会的に重要な課題となっていた。我が国の法典編纂は明治30年代に基本法典が成立しているが、その国家的な要請をうけて幕末以降海外で法学を学んで帰朝した青年達、あるいは法曹界をひきいていた人々によって、明治10年代に多くの法曹養成機関が設立されている。1871年（明治4年）司法省が設置され、1876年（明治9年）に代言人（後の弁護士）が免許制となり、1880年（明治13年）には代言人資格の統一試験が行われるようになる。法曹養成機関の設立が明治10年代に集中しているのは、代言人試験、判検事試験対策として時代の要請を受けたものと言えるだろう。官民こぞって社会一般へ法律の普及を目指し、法曹教育のすそ野を広げようとした時代である。

神田は江戸時代より水上交通を利用した物流の拠点であり、職人街として発展した。明治維新を経て1878年（明治11年）大区小区制の廃止により神田区が設置される。神田区西側の旧武家地（駿河台）は、明治5年の専門大学校建設計画の際、「水がよく、高台で風通しも良い」と記され、駿河台、神田一ツ橋、湯島、上野の4つの候補地のなかで最適地とされた。フルベッキ、九鬼隆一、浜尾新らの建議においても「大気の交通を自由にする場所」「水がよい」などとされたが、民有地であり官立学校の設立には至らなかった。

東京府統計書の集計による神田の人口調査によると、その人口は明治末年をピークとしてその後は減少している。明治25年の神田大火、大正12年の関東大震災で特に人口減少が著しい。明治10～30年代には学生が学校周辺に下宿を借り、昼間は働きながら勉学していたことが、残されている下宿人届や、学校のカリキュラムから読み取ることができる。私立法律学校の多くは官立校の教授や官吏を講師に招き、夕方から開講されるのが一般的だった。麹町と本郷台に挟まれた神田地域には、いくつかの学校を兼任する講師の数が少なくない。大火や震災を経て、神田は日本橋地区などと並び東京を代表する商業地域に発展していくが、学生の下宿は減り、周辺地域からの通学へと変わっていく。

講演する松原太郎氏

講演全体を通して、新設の法律学校が社会と連動して変化していくさまを追っていくことが、まさに、歴史を読み解くこととなり興味深い講演であった。

講演からは決して多くない資料を駆使し、さまざまな比較や分析を試みている様子が伝わり、同時に共同作業による史料展示の難しさも述べられていた。これまでの東日本部会における交流をベースに声を掛け合い共に研究や作業ができるという成果を含めて、このような経験が共有されることの意味は大きいものと思う。こういった企画の積み重ねの上に、将来は資料情報の共有化などにも着手されていくことによって、社会的資源としての大学史資料の存在意義もより確かなものとなっていくと思われる。

なお、1月23日に東日本部会の定例研究会で、4大学共催展「近代日本の幕開けと私立法律学校―神田学生街と法典論争」（2014年1月24日～2月28日）の内覧会が行われた。明治大学博物館特別展示室をお借りしての展示は仕上がりも見栄えよく、各章のつながりもよくまとめられていた。私立法律学校の創設という視点から、明治期の市井の教育および法律学者や教育者の姿が示されており、文明開化と呼ばれた近代化を招来した幕末から明治という時代の多様性と、そのなかで法律に関する教育機関が展開していく姿に

改めて触れることができた。内覧会後、会場に戻って各コーナーの担当者をパネラーとして質疑応答があり、駿河台に土地を取得した経緯や、関東大震災、空襲などの被害状況などについて質問が寄せられた。

全体を振り返り、複数の大学が連携した今回の４大学共催企画展は、私立法律学校の歴史的役割を日本近代史のなかに位置づけようとする試みの萌芽となるのではないかと感じた。共通の地域に立地する複数の大学が創設期と共通分野を着眼点としたことにより、その歴史をより大きな歴史の流れの中に位置付けていく企画となり、優れて興味深い成果であったと思う。今後の展開にも期待したい。

４大学共催展の内覧会の様子
(2014 年 1 月 23 日第 88 回研究会)

全国大学史資料協議会2013年度全国研究会

全国研究会（テーマ「大学史資料の活用と展示」）に参加して

額田記念東邦大学資料室　小関　有希

2013 年度の全国大学史資料協議会総会ならびに全国研究会は、10 月 9 日～ 11 日の間、明治大学駿河台キャンパスにおいて開催された。10 日に行われた全国研究会のテーマは「大学史資料の活用と展示」であり、①専修大学総務部大学史資料課　瀬戸口龍一氏②早稲田大学大学史資料センター　望月雅士氏③関西大学学術情報事務局年史編纂室　熊博毅氏の三氏にご報告をいただいたのち、総括討論が行われた。

報告に先だって、今回のテーマである「展示」は、調査・研究の発表、建学の精神の広報、自校史ＦＤ、新たな資料発掘の機会、アーカイブス認知度向上など、多くの意味を持つことが提示された。常設展の有無や実施回数などの差はあるが参加校共通の課題であり、質疑応答や総括討論においても関心の高さがうかがえた。

総括討論の様子

【①　瀬戸口氏報告】

「地域と大学を結ぶ―大学史資料活用の広がりを探して―」

専修大学では、創立 130 周年をきっかけに、サテライトキャンパス開設地や創立者の出身地域自治体との共催展示を積極的に推進している。専修大学のアーカイブスは研究機関ではなく事務組織内に位置付けられており、その第一の目的は資料の広報活用による大学経営への貢献であるとい

う。このような目的意識のもと、地方での認知度向上（志願者確保）・地域貢献・同窓会活動の活性化など様々な効果が期待できる企画として、共催展が実施されている。また展示だけに留まらずシンポジウムなどの各種イベントへも展開しており、まさしく多様な大学（法人）広報の一役を担う組織となっている。企画の際には、地方の博物館や資料館・メディア・企業など多くの機関を巻き込むことによって資料収集・資金・広報面での効果が増大するとのことであった。学内においても学事課、校友課、入学センターなど他部署と連携が必須であり、アーカイブスが事務組織であるメリットを最大限活用しているといえるだろう。

【②　望月氏報告】

「大学史における戦争展の試み―「ペンから剣へ―学徒出陣 70 年―」展を通して―」

早稲田大学においては、2005 年から数回にわたり戦争展が開催されている。戦争、特に学徒出陣は在学生や社会からの関心も高いテーマであるが、資料の散逸や関係者の高齢化、また個人および大学としての責任など多くの問題をはらんでいる。大学史担当部署としてこれらの問題にどう取り組んでいくか、継続的に実施されている戦争展は、望月氏および所属組織の意識の高さを示している。特に、センターが研究機関かつ教育機関であることを視野に入れ、展示内で「センターとして」メッセージを発信していることが印象的であった。実際の展示構築にあたっては、ヒアリング等を含む資料収集や、回想録や手記・記録など資料の性質を考慮した意味付けをしているほか、過去に作成された資料の再検証と複数資料の照らし合わせなど丁寧な考証がなされており、その調査過程を詳細に説明いただいた。調査は現在も継続中であり、引き続き「戦争」のテーマを深めていくとのことであった。

【③　熊氏報告】

「展示を通しての自校史教育―関西大学年史資料展示室の場合―」

2006 年の展示室開設経緯とともに、展示室を利用した自校史教育の実例についてご報告いただいた。展示室への来場促進の取り組みとして、誘導チラシの配布や新入生を中心とした見学ツアー実施が紹介された。展示室を歴史的建造物である「簡文館」内に配置したことで、建物そのものが一つの資料となることに加え、ツアーでは隣接する大学博物館や研究成果を示す高松塚古墳壁画再現展示室を同時に回ることで充実した内容となっている。その他、併設校生徒への出張授業や新入職員へのレクチャー事例が紹介された。展示室においては、大学の特性を活かし、在校生の課外活動（スポーツ等）を顕彰するスポット展示を行うほか、来校した著名人に揮毫を頼むなど、「歴史資料」の展示だけに留まらず柔軟かつ有効に利用されている。解説担当者には、報告者の熊氏を始めとして「トーク力」がある職員を充てているとのことで、展示を分かりやすく「魅せる」ための取り組みが随所に見えた。

その後の総括討論では、人員体制や教員との協力体制の有無、展示用レプリカの作成基準、テーマおよび内容の意思決定方法などについて質疑応答が交わされた。

今回の報告においては、三校がそれぞれ自校アーカイブスの組織的位置付けや目的を踏まえ、戦略的に展示を構築している点が非常に印象的であった。実際の資料が持つインパクトを提示できる「展示」は、絶好のパフォーマンス機会となり得る。資料の保存と活用のバランスなど課題は尽きないが、展示には大学の経営や教育、社会への貢献など様々な可能性があり、その方法について多くの示唆を得た研究会であった。ご報告いただいた三氏にお礼申し上げるとともに、運営にあたられた皆様のご尽力に感謝いたします。

2013年12月12日（木）研究会

「武蔵野美術大学美術館・図書館」見学会に参加して

学校法人自由学園図書館・資料室　村上　　民

第87回全国大学資料協議会東日本部会研究会は、2013年12月12日（木）14時より武蔵野美術大学鷹の台キャンパスを会場に開催され、武蔵野美術大学美術館・図書館の見学が行われた。「美術館・図書館」は、旧美術資料図書館を母体として再編成・拡充、2010年～2011年にかけてリニューアル開館した新しい施設。「美術館、図書館、民俗資料室、イメージライブラリーの４つのセクションから成り、それぞれの所蔵する属性の異なる様々な作品・資料群を相互に関連づけながら有機的に結ぶ『知と美の複合施設』」（パンフレットより）として、図書資料、美術・デザイン作品、民俗資料、映像資料など美大ならではの学術情報を一体的に取り扱うことが目指されている。

研究会冒頭で、猪又正弥氏（美術館・図書館事務部長）、小野寺玲子氏（同　美術資料担当課長）、沢田雄一氏（同　図書資料担当課長）から設立経緯や特色などについてご説明いただいた後、３つのグループに分かれて各施設を見せていただいた。

この日は、私が自由学園最高学部（大学部）で担当している「学園特別実習」（学内施設等を活動拠点として、そこでの運営を一部担いつつ研究を行う実習形式の講義）の図書・記録グループの学部１年生８名も研究会に参加させていただいた。彼らは自由学園図書館・資料室で、週４コマ、図書館と資料室の一体的運営に関わっている。ちょうどMLA連携について学び始めたところだったので、今回参加のお許しをいただけたことは大変貴重な機会となった。

彼らは、ムサビ生が思い思いに素敵な椅子に身をうずめて本を読み、画像データを一心不乱に編集する姿に「めっちゃカッコイイ！」、空間に横溢する知的で創造的な雰囲気にすっかり魅了された様子。一方、MLA連携について、Archivesの部分はどういう資料がそれにあたるのか、という疑問も湧いたとのことだった。普段から自由学園のAの部分、特に生徒学生の活動記録の作成や管理に関わっている彼ららしい感想だと感じた。

最後に、美術館・図書館館長の田中正之教授から、あらためて美術館・図書館が目指すものについてお話があった。会冒頭のご説明と合わせて、武蔵野美術大学のMLA連携については次のように捉えられるかもしれない。教授や助手の制作物は、美術作品であると同時に大学の教育研究に関わる資料、つまり大学アーカイブズでもある。森本祥子氏によれば、アーカイブズは「核」となる組織運営のための文書＋αから構成され、「＋α」は親組織の活動内容に対応して様々な形態、性質のものがありうるという。（『日本の大学アーカイヴズ』108頁）大学アーカイブズや研究機関アーカイブズにとって主要な「＋α」資料とは教育研究資料であり、それはアーカイブズで扱い得ると同時に、博物館や図書館での管理が適している場合もある。その意味で美術大学の教育研究資料を美術館や図書館で一体的に管理するということは、美術大学アーカイブズの「＋α」の性質に適った方法であり、内なるMLA連携といえるのではないか。なお課題としては、アーカイブズの「核」資料をこのMLA連携のなかにどのように有効に位置づけるかということかもしれない。

Aを拡張的にとらえることで必然的に内なるMLA連携が志向される――ムサビの先進的な取り組みに大いに触発された一日となった。

全国大学史資料協議会
2013 年度総会議事録・講演記録

日　時　2013 年 10 月 9 日（水）
　　15 時 10 分～ 15 時 50 分
場　所　明治大学駿河台キャンパス
　　グローバルフロント 1 階多目的室
出席会員＜東日本部会＞
　　愛知医科大学　学習院
　　神奈川大学　関東学院　慶應義塾
　　恵泉女学園　國學院大學
　　淑徳大学　女子美術大学
　　専修大学　創価大学
　　大東文化大学　拓殖大学
　　中央大学　帝京大学　東海大学
　　東京女子医科大学　東京農業大学
　　東邦大学　東北学院大学
　　東北大学　東洋英和女学院
　　東洋学園大学　獨協学園
　　富山大学　南山大学
　　日本体育大学　日本大学
　　法政大学　北海道大学
　　武蔵野美術大学　明治学院
　　明治大学　明星大学　立教大学
　　立教学院　立正大学
　　鈴木　秀幸（名誉会員）
　　石田　順二（名誉会員）
　　阿部　伊作　内山　宏　谷本　宗生
　　富田　美加　西山　伸　馬場　弘臣
　　＜西日本部会＞
　　大阪女学院　大阪大学
　　大阪府立大学　大谷大学
　　関西大学　関西学院
　　京都産業大学　近畿大学
　　熊本大学　甲南大学　神戸女学院
　　西南学院大学　同志社女子大学
　　同志社大学　南山学園　広島大学
　　福岡大学　武庫川女子大学
　　桃山学院　立命館　龍谷大学
　　大畑　博嗣　橋本　弘之　藤吉
　　圭二　谷田　明夫（オブザーバー）
　　東日本部会＝ 43 会員 68 名
　　（内訳：37 大学 62 名、個人他 6 名
　　西日本部会＝ 23 会員 27 名
　　（内訳：20 大学 24 名、個人他 3 名）
総　　計＝ 66 会員 95 名
　　（内訳：57 大学　86 名、個人他
　　9 名）
欠席届提出会員
　　東日本部会＝ 14 会員
　　（内訳：機関 7 、個人他 7 ）
　　西日本部会＝ 18 会員
司　会　日本大学　田渕　正和氏
　　（全国大学史資料協議会事務局校）
会場校挨拶　明治大学法学部教授
　　村上　一博氏
　　開会に先立ち、司会から総会成立の報告があった。
開会挨拶　國學院大學　益井　邦夫氏
　　（全国大学史資料協議会会長校）
議長選出　議　長　豊田　雅幸氏（立教学院）
　　副議長　大畑　博嗣氏
　　（大東市立歴史民俗資料館）
議　題　1．全国大学史資料協議会役員会の報告について（報告事項）
　　事務局校（日本大学・田渕正和氏）から、本総会開催に先立ち開催された全国役員会での審議内容について報告された（※全国役員会審議内容は「2013 年度役員会議事録」を参照のこと）。
　　2．2013 年度東・西日本部会事業計画報告（報告事項）
　　東日本部会事務局（神奈川大学・齊藤研也氏）、西日本部会庶務校（大阪大学・菅真城氏）から、各部会事業計画書に基づき本年度の事業計画が報告された。
　　3．その他
　　特になし。
講　演　松原　太郎氏
　　（日本大学広報部大学史編纂課）
演　題「明治期神田学生街の形成と私立法律学校」
〔概要〕　今回の全国研究会の企画運営を担当した 4 大学（専修大学・中央大学・日本大学・明治大学）が所在する神田地域は、江戸時代には武家地や町人地が広がり、明治時代に入ってからは官立・私立の学校

が相次いで設立され、学生街として発展してきた地域である。講演では、神田地域の江戸時代からの変遷とともに、明治期以降同地域が旧帝国大学と文部省など官庁街との中間に位置するといった地理的条件もあって私立の法律学校設立が集中、学生たちの就学・居住・勤労の場としての学生街が形成されていく経緯について述べた。また、明治期の神田区の人口数や学生数の推移など統計資料や、当時の「下宿届簿」などの資料を紹介し、神田の下宿生活の実態について具体的な検証を加えた。

なお、本講演は、前記4大学の共催展「近代日本の幕開けと私立法律学校―神田学生街と法典論争―」（2014年1月24日～2月28日於明治大学博物館特別展示室）における展示内容の一部を紹介したものである。　（椿田卓士）

見　学　明治大学　阿久悠記念館
案内　村松　玄太氏　阿部　裕樹氏（明治大学）

情報交換会　見学終了後、明治大学内、岸本辰雄ホール（明治大学リバティタワー23階）に於いて情報交換会を開催した。司会を小池聖一氏（広島大学）が行い、開会挨拶を全国大学史資料協議会副会長校の服部健二氏（立命館大学）が、乾杯の音頭を石田順二氏（武蔵野美術大学）がそれぞれ務めた。新規入会会員、全国大会初参加者などの紹介があり、閉会の辞は会場校の村松玄太氏（明治大学）が行った。

全国大学史資料協議会
2013年度役員会議事録

（第131回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録）

日　時　2013年10月9日（水）
13時30分～14時30分

場　所　明治大学駿河台キャンパス
グローバルフロント1階多目的室

出　席　（東日本部会）
神奈川大学（運営委員・事務局）
慶應義塾（監査委員）
國學院大學（会長）
専修大学（運営委員）
大東文化大学（会計委員）
東海大学（副会長）
日本大学（運営委員・事務局）
武蔵野美術大学（監査委員）
明治大学（会計委員）
西山　伸（副会長）
馬場　弘臣（運営委員）
（西日本部会）
大阪大学（庶務校）
関西大学（監査校）
関西学院（会計校）
同志社大学（ホームページ担当校）
広島大学（副部会長校）
武庫川女子大学（幹事校）
桃山学院（会報担当校）
立命館（部会長校）

全国大学史資料協議会事務局校（日本大学・田渕正和氏）が司会となり、役員会を開催した。

議　題　(1)2013年度総会・全国研究会の運営について
・東日本部会事務局校（日本大学）から、大会運営について、各役員の役割分担表に基づいて説明があり、これに従って運営することが確認された。

(2)2013年度の東西両部会の共同事業について
・『研究叢書』編集担当の桃山学院から、第14号は作成中であるとの報告があった。
・全国大学史資料協議会20周年事業について、引き続き東日本部会、西日本部会の幹事会で検討してゆくこととなった。

(3) その他
・西日本部会庶務校から、2014年度総会・全国研究会は大阪周辺で

開催する予定である旨の報告があった。
・東日本部会事務局校（日本大学）から、総会配布資料に、本年度から、前年度の「全国総会研究会収支」を掲載する旨の報告があった。
・東日本部会事務局校（日本大学）から、名誉会員鈴木秀幸氏が全国総会の際に自著『地域文化史の調査と方法』（日本評論社）の見本とチラシを置きたいとの申し入れがあった旨の報告があり了承された。
・東日本部会事務局校（日本大学）から、朝日新聞社が全国研究会で学徒出陣について取材したいとの申し入れがあった旨報告があり了承された。

全国大学史資料協議会
東日本部会幹事会議事録

第 132 回　2013 年 10 月 9 日（水）
13 時 55 分～ 14 時 20 分
会　場　明治大学駿河台キャンパス
グローバルフロント 1 階多目的室
出　席　神奈川大学　慶應義塾　國學院大學
専修大学　大東文化大学　東海大学
日本大学　武蔵野美術大学
明治大学
西山　伸
議　題　(1)2013 年度研究会概要・講演等記録の担当表について
・事務局（日本大学）から、標記について確認があった。
(2)2013 年度研究会について
・研究会担当（東海大学）から、12 月研究会の開催について報告があった。担当は武蔵野美術大学、日程は 12 月 12 日（木）、武蔵野美術大学美術館・図書館において概要説明および見学などを行なうことが了承された。
(3)2013 年度全国研究会について
・日本大学（事務局）から、全国研究会に朝日新聞社による取材（学徒出陣展示関係）が行なわれるとの報告があった。取材は、報告者である望月雅士氏（早稲田大学）に対するもので、協議会に対する取材は東日本部会事務局（担当：西山伸）が対応することが確認された。また、最終日の国立公文書館見学会について、参加者数の確認と概要の説明があった。
(4) その他
・会報編集担当（神奈川大学）から、会報 No.49 の編集進捗状況の報告があった。
・事務局（日本大学）から、『研究叢書』第 15 号の編集体制について提案があり、引き続き検討することとした。

第 133 回　2013 年 12 月 12 日（木）
13 時～ 14 時
会　場　武蔵野美術大学鷹の台キャンパス
12 号館 8 階第 1 会議室
出　席　神奈川大学　國學院大學　専修大学
大東文化大学　東海大学　日本大学
武蔵野美術大学　明治大学
西山　伸
議　題　(1)2013 年度総会・全国研究会の総括について
・事務局（日本大学）から、総会・全国研究会参加者数等の報告を行なった。
(2)2013 年度研究会について
・研究会担当（東海大学）から、本日の武蔵野美術大学「美術館・図書館」及び資料館施設見学の概要説明があった。次に、本日の研究会に、自由学園の学生 8 名が実習を兼ねて参加したいと申し出があり、了承された。
・2014 年 1 月研究会は 23 日（木）に明治大学駿河台キャンパスを会場として、神田地区 4 大学共同企画展「近代日本の幕開けと私

立法律学校―神田学生街と法典論争―」展の内覧会とディスカッションとすることが報告された。
・2014年3月研究会は、20日(木)開催を予定し、第2回大学史展実行委員会による研究会とする旨の報告があった。
(3) 会報について
・会報担当（神奈川大学）から、会報『大学アーカイヴズ』第49号を10月31日付で発行した旨報告があった。
・会報担当（神奈川大学）から、来年3月発行予定の会報第50号を記念号として特集を組むか等の提案があり、引き続き検討することとなった。
(4) 第2回大学史展実行委員会について
・実行委員長（西山伸）から、10月31日に開催された第2回実行委員会の内容が報告された。また、2014年3月研究会に企画案を提示したい旨の報告があった。
(5) 会計関係報告・提案について
・会計担当（明治大学)から、総会・全国研究会の収支、『日本の大学アーカイヴズ』出版契約に関わる京都大学学術出版会との覚書締結（印税収入破棄)、会費納入状況、旅費規程についての報告があった。次いで、「賛助会員創設」について提案があり、引き続き検討することとなった。
(6) その他
①『研究叢書』第15号について
・事務局（日本大学）から、第15号を含め『研究叢書』編集委員会を設けることについて再提案があった。
② 2014年度東日本部会総会について
・事務局（日本大学）から、2014年度東日本部会総会開催場所・会場校について、立教学院を候補とする提案があり、引き続き検討することとなった。

第134回　2014年1月23日（木）
12時30分～13時45分
会　場　明治大学駿河台キャンパス
大学会館3階第1・第2会議室
出　席　神奈川大学　慶應義塾　國學院大學
専修大学　大東文化大学　東海大学
日本大学　武蔵野美術大学
明治大学
議　題　(1)2013年度研究会について
・研究会担当（東海大学）から、本日の研究会について時間や概要などの説明があった。次いで、3月の研究会開催についての報告があり、日程は3月20日（木)、会場は武蔵野美術大学新宿サテライトに於いて、第2回全国大学史展に関する研究会を企画している旨の報告があった。また、次年度の研究会テーマについて、検討をはじめたいとする提案があった。
(2)2014年度部会総会について
・事務局（日本大学）から、会場校候補の選定と開催日について報告があった。会場校候補として立教学院に内諾を得ており、引き続き開催に向けた交渉を行なうことが承諾された。
(3) 会計関係提案について
・会計委員（明治大学）から、前回に引き続き、会計関係の提案についての問題の所在やこれまでの経過説明があった。検討の結果、収益事業とみなされる行為は行なわないこととし、会計委員が提案の税制上の対応と会活動の拡大のための「賛助会員」は設けないこととした。
(4)2014年度幹事会について
・事務局（日本大学）から、2014年度の役員改選についての提案があった。役員校のあり方につい

て種々意見が出され、幹事校の増員を強く進めること、担当を交替で行なうことなどを検討していくこととした。

(5) その他

・会報編集担当(神奈川大学)から、会報 No.50 の編集進捗状況の報告があった。また、No.50 の発刊にあたり、第 50 号を迎えての一文を会報に掲載したい旨の提案があり、会長校（國學院大學）が執筆することが了承された。
・事務局（日本大学）から、松崎彰氏（成蹊学園）の名誉会員推薦にあたっての提案があり了承された。
・事務局（日本大学）から、本協議会パンフレットの改訂についての提案があり、引き続き改訂箇所などの検討を行なうこととした。

全国大学史資料協議会
東日本部会研究会記録

名　称　全国大学史資料協議会 2013 年度全国研究会
（第 86 回全国大学史資料協議会東日本部会研究会）

テーマ　「大学史資料の活用と展示」

日　時　2013 年 10 月 9 日(水)～ 11 日(金)

会　場　10 月 10 日（木）明治大学
駿河台キャンパスグローバルフロント 1 階多目的室
10 月 11 日（金）国立公文書館

出　席　＜東日本部会＞
愛知医科大学　愛知大学　学習院
神奈川大学　関東学院
国立音楽大学　慶應義塾
恵泉女学園　國學院大學
国際基督教大学　国士舘
淑徳大学　女子美術大学
聖路加看護大学　専修大学
創価大学　大東文化大学
拓殖大学　中央大学　帝京大学
東海大学　東京経済大学
東京農業大学　東邦大学
東北学院　東北大学
東洋英和女学院　東洋学園大学
獨協学園　富山大学　南山大学
日本体育大学　日本大学
法政大学　北海道大学
武蔵野美術大学　明治学院
明治大学　明星大学　立教大学
立教学院　立正大学　早稲田大学
鈴木　秀幸　石田　順二
阿部　伊作　内山　宏
谷本　宗生　富田　美加
西山　伸　馬場　弘臣
＜西日本部会＞
大阪女学院　大阪大学
大阪府立大学　大谷大学
関西大学　関西学院
京都産業大学　近畿大学
熊本大学　甲南大学　神戸女学院
西南学院　同志社女子大学
同志社大学　南山大学　広島大学
福岡大学　武庫川女子大学
桃山学院　立命館　龍谷大学
大畑　博嗣　橋本　弘之
藤吉　圭二
オブザーバー　谷田　明夫
橋本　唯子
東日本部会＝ 51 会員 80 名
（内訳 :43 大学 72 名、個人他 8 名）
西日本部会＝ 24 会員 32 名
（内訳 :21 大学 27 名、個人他 5 名）
総計＝ 75 会員 112 名
（内訳 :64 大学 99 名､個人他 13 名）

開会挨拶　國學院大學　益井　邦夫氏
（全国大学史資料協議会会長校）

全国研究会テーマ
「大学史資料の活用と展示」

テーマ発題　日本大学　小松　修氏
（全国大学史資料協議会東日本部会事務局校）

報告 1　瀬戸口龍一氏
（専修大学大学史資料課）
「地域と大学を結ぶ―大学史資料活用の広がりを探して―」

［概要］　本報告は、大学史活動の地域への

「広がり」による大学と地域とのつながりを、専修大学がこれまで行ってきた地域開催展示を例に、具体的に提示したものである。まず、学内において、地域での大学史活動が、大学経営の問題に対する解決の一つとなるとの認知を得るとともに、地域に残る史資料の調査も教員や職員組織と連携して行い、また地域においては、史資料の調査を通じた地元の人たちとの交流をはじめ、公共機関や地方自治体の協力・後援による公共施設での展示の開催など、地域コミュニティとのつながりを得られたことが報告された。さらに共催展示に際しては、地域の機関やメディア、校友会・育友会支部に協力・支援を依頼したことや、大学が開催する以上、広報活動の一環としてだけでなく研究活動をベースにして、シンポジウム・講演会の実施や、研究成果の紀要への掲載も合わせて行ったことなどが説明され、以上の事例をもとに、共催展示のメリット・デメリットも示された。

（齊藤智朗）

報告２　望月　雅士氏
（早稲田大学大学史資料センター）
「大学史における戦争展の試み―「ペンから剣へ―学徒出陣 70 年―」展を通して」

［概要］　望月氏は、冒頭に早稲田大学における６回にわたる戦争展の取り組みについて紹介した。そうした経験を踏まえて行われた 2013 年開催の「ペンから剣へ―学徒出陣 70 年―」においては、戦没学生の遺品を通して不戦の誓いを新たにするという趣旨を定め、大学で所蔵する大学史関連資料や、靖国神社やわだつみのこえ記念館、遺族等が所蔵する戦没学徒の遺品等の使用をしたことについて紹介した。展示においては、当時の時代状況や大学に対する学生からの批判の視点と、学生生活及び戦闘行為を明示するという二つの視点を意識して提示したことに触れた。他方で遺品展示スタイルの問題点や、現代の政治情勢と重ねあわせて戦没学徒の遺書を読み取りがちになる傾向の問題についても触れた。

また資料によって異なる出陣学徒の戦没地の確定や、戦争犠牲者数の事実確定をめぐって資料的な問題が種々存在すること等を今後の課題として報告をしめくくった。

（村松玄太）

報告３　熊　博毅氏
（関西大学学術情報事務局年史編纂室）
「展示を通しての自校史教育―関西大学年史資料展示室の場合―」

［概要］　熊氏の報告は、同氏たちが一から作り上げた年史資料展示室を例に報告がなされた。展示室は、国の登録有形文化財である「簡文館」の１階に設置されている。以前は外気が直接出入りするうえ、西日が差し込むような場所に展示スペースがあったという。それが 120 周年を目前とした 2006 年８月、簡文館に年史資料展示室の開設が決定。約２ヶ月で開設準備をしなければならないという過酷な状況でありながらも無事開館。常設展として大学の「揺籃期」「発展期」「飛躍期」「拡充期」「関西大学第２世紀」を展示。企画展示室もあり、こちらは毎年テーマを変え展示しているという。

熊氏たちは展示室の見学者誘致を積極的に働き掛け、来場者を増やしているとともに、見学解説や併設校の授業支援なども行っている。そこで、関西大学創設者の関連資料を展示・解説したり、大学の歴史を講演したりと自校史教育を行っているとのこと。

また、「モノ」がないと展示が難

しいとして、理事長や学長、名誉教授、また来学した著名人に揮毫やサインを依頼し、自分たちで展示品を作っているということも紹介。

最後に、常設展の展示替え、カリキュラム化されている自校教育との連携が今後の課題であると述べ、報告を終了した。　（阿久津朋子）

総括討論

司　会　瀬沼　達也氏（関東学院）
　　山田　麻衣氏（桃山学院）

パネリスト

瀬戸口龍一氏（専修大学）
望月　雅士氏（早稲田大学）
熊　　博毅氏（関西大学）

［概要］

総括討論は、瀬沼達也氏（関東学院）および山田麻衣氏（桃山学院）の司会で進められた。最初に三報告それぞれについての質疑応答が行われた。瀬戸口報告については、資料課の体制、展示の準備期間、教員との協力関係などに関する質問があり、望月報告については、加害の側面の展示、戦時期全体の実態解明などに関する質問があり、熊報告については、学芸員課程との連携、自校史教育との関係などに関する質問があり、各報告者がそれぞれ回答と補足説明を行った。最後に全体討論に移り、大学の経営戦略における大学史展示の有効性については、各報告者より保護者や卒業生などに対するアピールとして有効であるとの回答があり、企画の主体の所在についての質問には基本的には各報告者の所属する機関が主体として展示を実施する旨の回答があった。（西山伸）

※各報告と総括討論の詳細については、『研究叢書』第 15 号に収録予定の諸論考を参照されたい。

閉会挨拶　立命館　服部　健二氏
（全国大学史資料協議会副会長校）

見学会　国立公文書館

［概要］　10 月 11 日（金）今年度見学会は国立公文書館で行われた。担当者より本日の流れについて説明を受けた後、A 班 B 班に分かれて見学会が行われた。国立公文書館の取り組みについて「公文書がひらく未来の扉」と題した DVD を視聴し、閲覧サービスや資料受入、展示会や会議、国際交流等の業務全般の概要の説明を受けた。その後、資料の保管状況及び修復現場を見学。今回は専門職員数人のみが立入を許可されている地下二階の一般書庫に入れていただいた。書庫内は温度 22 度湿度 55％に設定されており、収蔵棚板にはプラスチック製の板を中性紙で包んだものを利用、これは職員手作りの特製品とのことであった。どのような資料のサイズにも対応できる点もメリットとなっているという。修復は 4 階と地下 1 階とで行われているが、今回は地下 1 階でリーフキャスティングのやり方を見せていただいた。和紙による一般的な裏打ちしたものや、正麩糊による修復したものと比較しつつ、それぞれの資料の破損状態によって使い分けるなど説明を受けた。

国立公文書館 1 階では一般公開されている秋の特別展が開催されており、それも合わせて見学し、最後に参加者全員で集合写真撮影を行った後、散会となった。

（浅沼薫奈）

第 87 回　2013 年 12 月 12 日（木）
　　14 時 00 分～ 16 時 30 分
会　場　武蔵野美術大学鷹の台キャンパス
　　12 号館 8 階第一会議室
出　席　学習院　神奈川大学　國學院大學
　　国際基督教大学　国士舘
　　自由学園　淑徳大学
　　女子美術大学　成蹊学園

専修大学　大東文化大学
拓殖大学　東海大学
東京農業大学　東邦大学
東洋学園大学　獨協学園
日本体育大学　日本大学
武蔵野美術大学　明海大学
明治大学　立教大学
西山　伸　細見　大作
オブザーバー　自由学園学生８名
（以上 44 名）

会長挨拶　益井　邦夫氏
（國學院大學校史・学術資産研究センター）

見　学　武蔵野美術大学美術館・図書館、民俗資料室

概　要　研究会では、最初に武蔵野美術大学美術館・図書館の担当者から博物館・美術館全体の経緯や概略の説明、さらに美術館・図書館の各担当者からそれぞれの館の概略説明がなされた後、参加者をグループ分けして、担当者の案内に従って図書館・美術館・民俗資料室・イメージライブラリーの４施設の見学が行われた。各施設ではさらにそれぞれの施設担当の方から詳細な説明を受けた。

施設見学後は、田中正之館長も参加いただき、質疑応答が行われた。まず館長から館の現況や展望についての話があった後、大学に係る資料を今後どのように収集・管理していくのかなどのいくつかの質問や感想が参加者から寄せられ、他大学とは違う美術大学ならではの美術館・図書館の運営のあり方についての討論が交わされた。

（瀬戸口龍一）

第 88 回　2014 年 1 月 23 日（木）
14 時 00 分～ 16 時 30 分

会　場　明治大学駿河台キャンパス
大学会館３階第１・第２会議室

出　席　学習院　神奈川大学　慶應義塾
恵泉女学園　國學院大學
国際基督教大学　国士舘　淑徳大学
女子美術大学　成蹊学園
専修大学　大東文化大学　拓殖大学
中央大学　帝京大学　東海大学
東洋学園大学　獨協学園
日本体育大学　日本大学
武蔵野美術大学　明治大学
立正大学
内山　宏　藤田　茂　細見　大作
（以上 34 名）

会長挨拶　益井　邦夫氏
（國學院大學校史・学術資産研究センター）

見　学　専修大学　中央大学　日本大学　明治大学　共催
企画展「近代日本の幕開けと私立法律学校―神田学生街と法典論争―」
（展示会場：明治大学博物館特別展示室）

概　要　今回の見学は共催展がスタートする前日に内覧という形で行われた。

展示はⅠ. 神田学生街の形成、Ⅱ. 明治維新と文明開化、Ⅲ. 私立法律学校の胎動、Ⅳ. 法典論争の中の私立法律学校、Ⅴ. 私立法律学校のゆくえ―総合大学への道―の５部構成になっていて、それぞれを日本大学、専修大学、明治大学、中央大学が分担して準備されたと伺った。私たちは各コーナーの担当者から展示の背景となった当時の状況を説明していただき、今回の見どころや苦心された点などをお聞きすることができた。

内覧後、会場に戻って質疑応答が行われた。主な質問の内容は「駿河台に土地を取得（賃借）した経緯」「当時の学校の規模や学生数」「関東大震災や空襲による被害の状況（特に大学の蔵書や歴史的資料の被害状況）」などで、それぞれの質問に対して共催展の各大学の担当者から回答をいただいた。最後に、今回の４大学共催という試みについて、特に複数の大学が連携する

際のむずかしさについてお聞きしたが、「苦労した点があっても共催だからこそ得られたものも大きかった」というお話が印象に残った。

（清野早苗）

全国大学史資料協議会
東日本部会会員名簿
（2014 年 1 月 23 日現在）

【名誉会員】

竹市 知弘・城田 秀雄・東田 全義・
鈴木 秀幸・石田 順二

【機関会員】担当部課室／住所・電話他

1　愛知医科大学　アーカイブズ
〒480-1195　長久手市岩作雁又1-1
電話:0561-62-3311（内）1265
FAX:0561-62-4662
URL:http://www.aichi-med-u.ac.jp/amua/

2　愛知大学　豊橋研究支援課
〒441-8522　豊橋市町畑町1-1
電話:0532-47-4579
FAX:0532-47-4129
URL:http://www.aichi-u.ac.jp

3　青山学院　資料センター
〒252-5258　相模原市中央区
淵野辺5-10-1
大学相模原キャンパスN403
電話:03-3409-6742
（内線:11345, 11346）
FAX:03-3409-8134
URL:http://www.aoyamagakuin.jp/
mcenter/index.html

4　学習院　学習院アーカイブズ
〒171-8588　豊島区目白1-5-1
電話:03-3986-0221（内2531）
FAX:03-5992-1394
URL:http://www.gakushuin.ac.jp/ad/
archives/

5　神奈川大学　大学資料編纂室
（運営委員・事務局）
〒221-8686　横浜市神奈川区六角橋
3-27-1
電話:045-481-5661
FAX:045-491-7915
URL:http://archives.kanagawa-u.ac.jp/

6　関東学院　学院史資料室
〒236-8501　横浜市金沢区六浦東1-50-1
電話:045-786-7066
FAX:045-786-2932
URL:http://www.kanto-gakuin.ac.jp

7　国立音楽大学　校史編纂準備室
〒190-8520　立川市柏町5-5-1
電話:042-535-9512
FAX:042-537-6356
URL:http://www.kunitachi.ac.jp/

8　慶應義塾　福澤研究センター
（監査委員）
〒108-8345　港区三田2-15-45
電話:03-5427-1604
FAX:03-5427-1605
URL:http://www.fmc.keio.ac.jp

9　恵泉女学園　史料室
〒156-0055　世田谷区船橋5-8-1
電話/FAX :03-3303-6920

10　工学院大学　総務課
〒163-8677　新宿区西新宿1-24-2
電話:03-3340-0121
FAX:03-3345-0228

11　皇學館　館史編纂室
〒516-8555　伊勢市神田久志本町1704
電話:0596-22-6817

12　國學院大學
校史・学術資産研究センター
（会長）
〒150-8440　渋谷区東4-10-28
電話:03-3797-3684
FAX:03-5466-9237
URL:http://www.kokugakuin.ac.jp/oard/

13　国際基督教大学　歴史資料室
〒181-8585　三鷹市大沢3-10-2
電話:0422-33-3306,3308
FAX:0422-33-3305

14　国士舘　国士舘史資料室
〒154-8515　世田谷区世田谷4-28-1
柴田会館2階
電話:03-3418-2691
FAX:03-3418-2694
URL:http://www.kokushikan.ac.jp

15　駒澤大学
禅文化歴史博物館大学史資料室
〒154-8525　世田谷区駒沢1-23-1
電話:03-3418-9613

FAX:03-3418-9611
URL:http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/zenbunka/

16　実践女子学園　総務部学園史資料室
〒191-8510　日野市大坂上4-1-1
電話:042-585-8945
FAX:042-585-8808

17　芝浦工業大学　経営企画部企画広報課
〒135-8548　江東区豊洲3-7-5
電話:03-5859-7070
FAX:03-5859-7071
URL:http://www.shibaura-it.ac.jp

18　自由学園　自由学園資料室
〒203-8521　東久留米市学園町1-8-15
電話/FAX :042-422-1097
URL:http://www.jiyu.ac.jp/

19　淑徳大学　淑徳大学アーカイブズ
〒260-8701　千葉市中央区大巌寺町200
電話:043-265-7526
FAX:043-265-8310
URL:http://www.shukutoku.ac.jp/archives/

20　上智大学　資・史料室
〒102-8554　千代田区紀尾井町7-1
電話:03-3238-3294
FAX:03-3238-3539
URL:http://www.sophia.ac.jp

21　女子美術大学　歴史資料室
〒166-8538　東京都杉並区和田1-49-8
電話:03-5340-4658
FAX:03-5340-4683

22　成蹊学園　史料館
〒180-8633　武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
電話:0422-37-3994
FAX:0422-37-3298
URL:http://www.seikei.ac.jp

23　成城学園
教育研究所(成城学園百年史編纂室)
〒157-8511　世田谷区成城6-1-20
電話:03-3482-1484
FAX:03-3482-5272
URL:http://www.seijogakuen.ed.jp/

24　聖路加看護大学　大学史編纂・資料室
〒104-0044　中央区明石町10-1
電話:03-3546-0770
FAX:03-3546-3575

25　専修大学　総務部大学史資料課
(運営委員)
〒101-8425　千代田区神田神保町3-8
電話:03-3265-5879
FAX:03-3265-5923

26　創価大学　創価教育研究所
〒192-8577　八王子市丹木町1-236
電話:042-691-5623
FAX:042-691-5654
URL:http://office.soka.ac.jp/faculty/edu-research/

27　大東文化大学　大東文化歴史資料館
(大東アーカイブス)
(会計委員)
〒175-0083　板橋区徳丸2-19-10
電話:03-5399-7646
FAX:03-5399-7647
URL :http://www2.daito.ac.jp

28　拓殖大学　創立百年史編纂室
〒112-8585　文京区小日向3-4-14
電話:03-3947-7140
FAX:03-3947-7294

29　玉川大学　教育博物館
〒194-8610　町田市玉川学園6-1-1
電話:042-739-8656
FAX:042-739-8654
URL :http://www.tamagawa.jp/research/museum/

30　多摩美術大学　大学史編纂室
〒158-8558　世田谷区上野毛3-15-34
電話:03-3702-1168
FAX:03-3702-9416

31　中央大学
入学センター事務部大学史編纂課
〒192-0393　八王子市東中野742-1
電話:0426-74-2132(直)
FAX:0426-74-2203

32　津田塾大学　津田梅子資料室
〒187-8577　小平市津田町2-1-1
電話:042-342-5219
FAX :042-342-5249

33　帝京大学　企画グループ博物館準備室
〒192-0395　八王子市大塚359番地
電話:042-678-3675
FAX:042-678-3538

34　東海大学　学園史資料センター
(副会長)

〒259-1292　平塚市北金目4-1-1
東海大学同窓会館2F
電話:0463-50-2450
FAX:0463-50-2449
URL :http://www.u-tokai.ac.jp/shiryo_center/

35　東京家政大学
広報連絡会議(総務部総務課)
〒173-8602　板橋区加賀1-18-1
電話:03-3961-5226
FAX:03-3962-7135
URL :http://www.tokyo-kasei.ac.jp/

36　東京経済大学　図書館・史料室
〒185-8502　国分寺市南町1-7-34
電話:042-328-7955(史料室)
FAX:042-328-5900
URL :http://www.tku.ac.jp

37　東京女学館　史料編纂室
〒150-0012　渋谷区広尾3-7-16
電話:03-3400-0861
FAX :03-3407-5995
URL :http://www.tjk.jp/

38　東京女子医科大学
史料室・吉岡彌生記念室
〒162-8666　新宿区河田町8-1
電話:03-3353-8111(内22213)
FAX :03-3353-8209
URL :http://www.twmu.ac.jp/home/founder/yayoi.html

39　東京女子大学
大学運営部総務課大学資料室
〒167-8585　杉並区善福寺2-6-1
電話:03-5382-6320(代表)
FAX:03-3395-1037

40　東京電機大学　総務部(企画広報担当)
〒120-8551　足立区千住旭町5番
電話:03-5284-5125
FAX:03-5284-5180
URL :http://www.dendai.ac.jp/

41　東京農業大学
学術情報センター(図書館)
〒156-8502　世田谷区桜丘1-1-1
電話:03-5477-2526
FAX:03-5477-2546

42　東邦大学　額田記念東邦大学資料室
(法人本部経営企画部)
〒143-8540　大田区大森西5-21-16
電話:03-5763-6697
FAX:03-3768-0660
URL :http://www.archives.toho-u.ac.jp/

43　東北学院　広報部広報課
〒980-8511　仙台市青葉区土樋1丁目3-1
電話:022-264-6423(代表)
FAX :022-264-6478
URL :http://www.tohoku-gakuin.ac.jp

44　東北大学　史料館
〒980-8577　仙台市青葉区片平2-1-1
電話:022-217-5040
FAX:022-217-4998

45　東洋英和女学院　史料室
〒106-8507　港区六本木5-14-40
電話:03-3583-3166(直)
FAX:03-3583-3329(直)
URL:http://www.toyoeiwa.ac.jp

46　東洋学園大学　東洋学園史料室
〒113-0033　文京区本郷1-26-3
電話:03-3811-2840
FAX:03-3811-5176
URL:http://www.tyg.jp/tgu/toyo/archiv.html

47　東洋大学　井上円了記念学術センター
〒112-8606　文京区白山5-28-20
電話:03-3945-7555
FAX:03-3945-7601
URL:http://www.toyo.ac.jp/enryo/index.html

48　獨協学園
獨協学園史調査研究資料センター
〒340-0042　草加市学園町1-1
電話:048-946-2800
FAX:048-942-4312
URL:http://www.dac.ac.jp/

49　富山大学　学務部学務グループ
〒930-8555　富山市五福3190
電話:076-445-6031
FAX:076-445-6034

50　南山大学　史料室
〒466-8673　名古屋市昭和区山里町18
電話:052-832-3111(内3120・3121)
FAX:052-833-6985
URL:http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/archives/

51　日本医科大学
史料館(仮称)設立準備室
〒113-0032　文京区弥生1-4-14

日本医科大学弥生2号館3階
電話:03-3868-9161
FAX:03-3868-9209

52　日本女子大学　成瀬記念館
〒112-8681　文京区目白台2-8-1
電話:03-5981-3376
FAX:03-5981-3378
URL :http://www.jwu.ac.jp/grp/naruse_memorial

53　日本体育大学　図書館
〒158-8508　世田谷区深沢7-1-1
電話:03-5706-0907
FAX:03-5706-0913
URL:http://library.nittai.ac.jp/lib/~/index.html

54　日本大学　広報部大学史編纂課
（運営委員・事務局）
〒359-0003　所沢市中富南4-25
電話:04-2996-4555
FAX :04-2996-4592
URL :http://www.nihon-u.ac.jp

55　法政大学　法政大学史センター
〒102-0073　千代田区九段北4-3-32
一口坂TSビル4階
電話:03-5212-4108
FAX:03-5212-4109
URL:http://www.hosei.ac.jp/

56　北海道大学　大学文書館
〒060-0808　札幌市北区北8西5
北海道大学附属図書館4階
電話/FAX :011-706-2395
URL:http://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/

57　武蔵学園　記念室
〒176-8533　練馬区豊玉上1-26-1
電話:03-5984-3748
FAX:03-5984-4785
URL :http://www.musashi.jp/archives

58　武蔵野美術大学　大学史史料室
（監査委員）
〒187-8505　小平市小川町1-736
電話:042-342-6091
FAX:042-342-9547
URL:http://www.musabi.ac.jp/history

59　明海大学
浦安キャンパスメディアセンター
（図書館）
〒279-8550　浦安市明海1丁目
電話:047-350-4997
FAX:047-355-7992
URL:http://opac.meikai.ac.jp/opac/

60　明治学院　歴史資料館
〒108-8636　港区白金台1-2-37
電話/FAX :03-5421-5170
URL:http://www.siryokan.meijigakuin.jp/

61　明治大学　大学史資料センター
（会計委員）
〒101-8301　千代田区神田駿河台1-1
電話:03-3296-4085・4329
FAX:0-3296-4086
URL:http://www.meiji.ac.jp/history/

62　明星大学　明星教育センター
〒191-8506　日野市程久保2-1-1
電話:042-591-6534
FAX:042-591-6949

63　立教大学　立教学院史資料センター
〒171-8501　豊島区西池袋3-34-1
電話/FAX :03-3985-2790
URL:http://www.rikkyo.ne.jp/web/z3000450/index.html

64　立教学院　立教学院展示館設置準備室
〒171-8501　豊島区西池袋3-34-1
電話/FAX :03-3985-2574

65　立正大学　情報メディアセンター
大崎学術情報サービス課
史料編纂担当
〒141-8602　品川区大崎4-2-16
電話:03-3492-2690
FAX:03-5487-3349
URL:http://www.ris.ac.jp

66　早稲田大学　大学史資料センター
〒202-0021　西東京市東伏見3-4-1
東伏見STEP22
電話:042-451-1343
FAX:042-451-1347
URL:http://www.waseda.jp/archives/

67　愛知教育大学　大学教育研究センター
愛知教育大学史資料部門（休会中）

68　駒澤女子大学　IR・広報部（休会中）

69　聖学院大学　企画総務課（休会中）

70　千葉商科大学
総務課史料編纂担当（休会中）

71　東京基督教大学

歴史資料保存委員会(休会中)
72　名古屋大学　大学文書資料室(休会中)
73　日本工業大学　総務課(休会中)
74　宮城学院　資料室(休会中)
75　立教女学院　学院資料室(休会中)

【個人会員】
1　阿部　伊作(東京基督教大学図書館)
2　安藤　正人(学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻)
3　伊藤　純郎(筑波大学人文社会系)
4　上田　紘代(東京女学館中学校・高等学校)
5　内山　宏(日本図書館協会・日仏図書館情報学会・経済資料協議会)
6　大沢　泉(八戸大学)
7　小川千代子(国際資料研究所)
8　神谷　智(愛知大学文学部)
9　桂　典子(国立女性教育会館情報課)
10　北村　和夫(聖心女子大学文学部)
11　工藤　元((株)ニチマイ)
12　倉方　慶明(東京外国語大学大学院博士前期課程)
13　坂口　貴弘(京都大学大学文書館)
14　清水　善仁(神奈川県立公文書館)
15　下田　尊久(藤女子大学図書館情報課程)
16　谷本　宗生(東京大学史史料室)
17　寺嵜　弘康(神奈川県立歴史博物館)
18　富田　美加(茨城県立医療大学)
19　豊田　徳子(東洋大学校友会)
20　中村　青志(東京経済大学)
21　中村　治人(岡崎女子短期大学)
22　西山　伸(副会長・京都大学大学文書館)
23　野澤　和範
24　橋本久美子 (東京芸術大学総合芸術アーカイブセンター大学史史料室)
25　馬場　弘臣 (運営委員・東海大学教育研究所)
26　藤田　正(愛媛県歴史文化博物館)
27　藤田　茂 (日本大学人文科学研究所研究員)
28　古郡　信幸(清泉女子大学)
29　細見　大作(細見工業株式会社)
30　細井　守(藤沢市教育委員会生涯学習課博物館準備担当)
31　堀田慎一郎(名古屋大学大学文書資料室)
32　松山　龍彦(国際基督教大学人事部)
33　三浦　和己(株式会社IMAGICA東京映像センターフィルムプロセス部)
34　吉川　隆博

『大学アーカイヴズ』No.50 発刊にあたって

『大学アーカイヴズ』が創刊されたのは本協議会設立（1988 年 6 月）の翌年 1 月のことで、ここに 50 号の発刊を迎えました。当時を知る一人として真に感無量であります。発足当時の幹事会は新しい大学史研究と言う世界をどの様に運営し、目的を達成させて行くか、試行錯誤の連続でした。その歩みを活字に止め、会員相互の理解と交流を促進させると共に、広く本協議会の活動を紹介する目的で発刊を実践しました。全号を再読し、その目的が達成されつつ有ることを実感しています。今後とも会員諸氏のご協力を得て内容の充実が図られることを祈念いたします。

会長校　國學院大學
益井　邦夫

ご　案　内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【日本大学・広報部大学史編纂課】
〒 359-0003
埼玉県所沢市中富南 4-25
☎　04-2996-4555

【神奈川大学・大学資料編纂室】
〒 221-8686
横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
☎　045-481-5661

会 報 編 集

【神奈川大学・大学資料編纂室】
〒 221-8686
横浜市神奈川区六角橋 3-27-1
☎　045-481-5661